



第2節 優れた環境人財の育成

本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も重要な財産であると考え、「人財」育成の取組を進めてきました。とりわけ、環境問題の解決には、一人ひとりが環境との関わりを理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習に積極的に取り組んでいます。また、平成23年6月に改正された「環境教育等促進法」では、体験学習に重点を置いた取組から幅広い実践的人材づくりへと取組を発展させるため、具体的な規定が充実されました。今後、この法律の趣旨を踏まえ、あらゆる世代における環境学習・体験・協働の充実を図るとともに、専門的かつ実践的な知見を身につけた人財を育成します。

1. 「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進

(1) ESDについて

ESDとは、持続可能な開発のための教育＝「Education for Sustainable Development」の略称です。2002（平成14）年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）」で「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を日本が提案し、2005（平成17）年から国連など世界規模の取組が始まりました。

一方近年、地域の課題は多様な問題が複雑に絡み合っており、少人数のみ、単一分野のみの取組では、解決が難しいのが実情です。様々な分野の多くの方々、「つながり、結びつき、一緒に考え、取り組む」ことが「課題解決への鍵」となります。ESDとは、地球や日本の課題を、最も実感できる身近な地域からの取組で乗り越えていく、すなわち多様な人々が地域等のさまざまな課題に気づき、社会のあり方を変えていく人財を育む学習・教育です。

ESD活動の対象は、学校教育だけでなく、社会教育や企業の人材育成など、持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながる全ての活動が該当し、分野も環境、人権、福祉、ジェンダー、多文化共生など多岐にわたります。

(2) 本市が目指すESD

「世界の環境首都」「環境未来都市」の実現を目指す本市の目標は「持続可能な社会」を構築することであり、「北九州ESD」はまさに、それを担う人づくりの活動です。本市では、市民・NPO、学校、企業、行政等からなる「北九州ESD協議会」を中心に、ESD活動を推進しています。その活動において、「感じる」「学ぶ」「行動する」「つながる」「広がる」「共有する」ことができるESDの視点を持った人財を育成するため、参加体験型の実践学習を重視し、市民への啓発を進めています。



(3) 国連大学・地域拠点（RCE）の認定

国連大学が全世界で進めているESD推進のための「地域拠点（Regional Centres of Expertise：RCE）」づくりにおいて、平成18年に「RCE北九州」として、世界22地域とともに認定されました。以降、RCEづくり及びそのネットワークの構築が進められています（平成26年1月時点のRCE：127地域、うち国内6地域）。

これを通じ、国内外のRCEとの連携強化を図るとともに、本市のESD活動の普及を進めています。

(4) これまでの取組

当初、44団体で発足した北九州ESD協議会は、現在では大学や企業をはじめ、環境活動や多文化共生などを実践する75団体（平成26年4月現在）まで輪を広げ、各専門分野を活かした活動やパートナーシップによる取組を進めています。

（平成25年度の主な活動）

- 市制50周年記念事業として、「ESDの10年」の最終年會合のプレイベント「アジア太平洋RCE地域會議」と一般公開の国際シンポジウムを開催

- 「より良い未来づくり」に向けて、既に地域で行っている様々な活動に、持続可能なまちづくりの視点を加えていただく（+ESD（プラスESD））ため、地域活動の核となる市民センター館長等を中心にESDコーディネーター研修を開催
- 市内10大学の連携による「まなびとESDステーション」において、大学生を中心とした20を超える地域の課題解決に向けた活動を開始



第6回アジア太平洋RCE地域會議



ESDコーディネーター研修

(5) 今後の取組

2014年に、提案国の日本で開催する「ESDの10年」最終年會合以降のさらなる活動の活性化に向けて、これまでの取組に加え、

- 地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成と実践事例の創出、発信
- 国際RCEネットワーク強化を目指した最終年會合への参加とサイドイベントの開催を通じた市民への啓発強化
- 最終年會合の成果としてまとめられる今後の方向性や国の動き、本市の活動状況をふまえた新たな活動計画の策定
- ユネスコスクールや「まなびとESDステーション」との協働などを行います。

2. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成20年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」（平成19年10月策定）の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つです。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

また、本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができきっかけをつくります。

平成25年度は、手軽に過去問題に取り組めるiPhone

用アプリケーション「環境首都検定ドリル」を作成しました。また、小学校受検を拡大したことで、ジュニア編受検者が538人増加しました。

(2) 検定の概要（平成25年度）

【受検資格】なし

【受検料】無料

【出題形式】ジュニア編：問題数25問（4択形式）
一般編：問題数50問（4択形式）
上級編：問題数50問（4択形式）

【合否判定】70点以上合格

【出題範囲】

- ジュニア編：小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!!きれいな地球」+副読本追加版
- 一般編：公式テキスト
- 上級編：公式テキスト+時事問題等



検定実施会場



平成25年度表彰式

(3) 実施結果（平成25年度）

【実施日時】

平成25年12月15日（日）10:00～11:00

【会場】

西日本総合展示場

【実施結果】

	ジュニア編	一般編	上級編	計
受検者数	1,132人	844人	165人	2,141人
平均点	46.1点	66.8点	67.8点	55.9点
合格者数	75人	406人	80人	561人
合格率	6.6%	48.1%	48.5%	26.2%

【特徴】

- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検（69団体、761人）
- ② 幅広い年齢層で受検（7才～94才）
- ③ 市外からも50人が受検（遠方受検：東京都、神奈川県、石川県等）

(4) 今後の取組

平成26年度は、12月14日（日）に実施します。受検

者の皆さんからいただいたアンケートの結果も参考にしながら、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業のCSR活動に役立てていただくなど様々な場での活用の拡大を図っていきます。

3. 北九州環境みらい学習システムの推進

(1) 目的

本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等をつなげ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行い、「環境未来都市」推進の原動力となる「市民環境力」の向上を目指します。

(2) これまでの取組

ア. エコツアーガイド等人材育成

これまで研修を行った観光ボランティアガイドなどを対象に、環境ガイドとして本市の環境施策のフォロー研修を実施しました。また、海外からの視察者に本市の強みである環境の取組を正確に伝え、発信できる、本市の環境に精通した環境通訳の育成に取り組み、市制50周年記念事業として実施した北九州エコマンス（10月）に開催した国際会議等のオプションツアー等で活躍しました。

イ. 環境学習（エコ）ツアーの実施

多世代の市民が参加し、本市の環境について楽しく学びながら、環境に関する知識や行動力を身に付けることができるように、市内の環境スポットを周遊するエコツアーを実施しました。また、民間企業などによる地域団体や一般市民向けオリジナルツアーの実施・支援を行い、約6,400人の参加がありました。



ESDに関する「アジア太平洋RCE地域会議」オプションツアー



女性向けエコツアー

ウ. 情報発信

環境情報の発信拠点として、集客性の高い小倉駅の「総合観光案内所」内に、本市の環境施策や関連施設等を紹介するパンフレットなどを取り揃えた「環境情報コーナー」を

設置し、情報提供を行っています。また、「北九州環境みらい学習システムホームページ」(http://www.eco-learning.jp/)において、環境関連施設情報や最新のイベント等の情報を広く、分かりやすく発信しています。

エ. エコツアーガイドブック等広報物の発行

テーマごとのエコツアーガイドブック「公害克服編」・「自然環境編」・「環境産業編」・「環境まちづくり編」「東田編」「若松編」（日・英・中・韓各言語版）を配布しています。



先進的な環境の取組が進んでいる地区「東田編」と「若松編」

(3) 今後の取組

今後は、各環境学習施設等で実施している環境学習プログラムの集約とネットワーク化をはじめ、学習の推進強化を図る仕組みの構築を進めます。また、システムを支えるための効果的かつ継続した人材の育成に取り組みます。

4. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

(1) 北九州市環境ミュージアム

平成13年（2001）に開催された北九州博覧祭のパビリオンとして誕生以来、本市の環境学習・活動・交流の総合拠点となっています。様々な地球環境問題をはじめ、本市の公害克服の歴史や身近なエコライフの取組、市民・企業による多様な環境保全活動などを展示しており、これらをガイドの分かりやすく詳しい解説により、「見て・触れて・楽しみながら」学べる施設です。

館内には、情報ライブラリーを設置し、書籍やビデオなど揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っていきます。また、再使用の促進に向け、子ども服のリユース品も販売しています（80ページ参照）。

- 平成25年度来館者数 131,851人
- 環境ミュージアム HP アドレス：http://eco-museum.com/



第3ゾーン「地球環境とわたしたち」

■新たな情報発信ツールであるAR（拡張現実）の導入

ミュージアムの展示内容に連動して、スマートフォンなどの携帯で映像などを表示し、紹介内容を拡張するARを設置し、学習機能の充実化に向けた仕組みづくりを進めています。

(2) 北九州エコハウス

平成22年4月に環境ミュージアムに併設し、21世紀環境共生型モデル住宅として、環境に優しい住まいづくりの情報発信等を行っています。

(3) 体験学習プログラム「地球の道」の導入

環境ミュージアムの隣接地に平成24年10月、46億年の地球の歴史を460mの距離に置き換え、その道をガイドと歩きながら地球環境の大切さを学ぶ体験学習プログラムを開設しました。

(4) 環境学習サポーター

環境ミュージアムを拠点として、館内外の市内全域で、環境学習・活動の活性化に向けてサポートを行う市民ボランティアです。様々なエコ工作や環境実験のアクティビティをはじめ、ミュージアムガイドと連携した多様な体験型学習を通じて楽しみながら市民の環境意識の醸成を図るお手伝いをしています。

また、これらのプログラムを小学校や市民センターなどでも“出張環境ミュージアム”として行い、地域の環境活動を推進しています。他にも、ごみ処理工場や浄化センター等のガイドを市民目線で行うなど、環境に関する知識や学習の指導者としての技術習得に努めながら、市全域で幅広く活動しています。



環境学習サポーターによる体験学習

●平成25年度の実績

- ・環境学習サポーター登録数・・・65人
- ・活動日数（のべ）……………313日
- ・活動人数（のべ）……………2,538人

5. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。平成25年度は、19クラブ、598人の幼児から高校生までが活動し、子どもたちの主体的な環境活動が促進されました。また、環境活動に関する教材や情報の提供、エコクラブだよりの発行、未来ホテルデーに参加しました。



平成25年度未来ホテルデーの様子

6. 環境教育副読本による環境学習の推進

幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から作成し、平成14年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の5段階シリーズ化が完成しました。平成15年度は、小学生用副読本の教師用指導書3種類と、幼児用の大型環境絵本を作成し、平成16年度は、幼児用絵本の点字本と音声CDセットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。

平成17年度は、小学校高学年用の別冊資料として、環境学習サポーターが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成18年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習の時間などの教材に積極的に活用されています。

これらの副読本は各学年の学習に関連させながら、各教科や総合的な学習の時間の中で、児童が環境について理解を深めるために活用することを目的としています。

幼児用	コスモスほしからきたベルル(環境絵本) (汎用型及び大型、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地球はみんなのおともだち	教師用指導書
	中学年	もっと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで作ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につながるゆたかな地球		

平成25年度には、小学校高学年用環境教育副読本追加版を作成し、市ホームページで公表しました。

本市の事例を用いて低炭素社会のよさに気づき、身近なところからエコライフに取り組んでみたいと思えるような具体的な例や、太陽光発電などの再生可能エネルギーにも焦点をあてています。

また、書き込み式の環境教育ワークブックとして「みどりのノート」(小学校低学年・中学年・高学年用)を平成21年度に作成し、平成22年度から市内の全小学校に毎年配布しています。

7. 環境修学旅行の取組

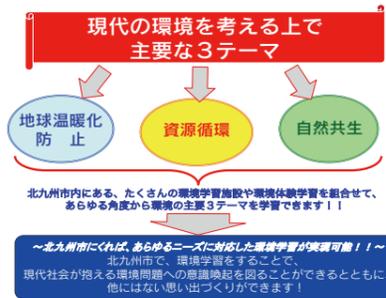
(1) 概要

本市では、本市の観光振興を一層推進していくため、国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術などと、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」という本市ならではの修学旅行を平成 22 年度より開始しました。

平成 25 年度は、九州・関西エリアから小学校・中学校・高等学校・大学の、合計 30 校 1,884 人が同修学旅行で本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要 3 テーマである「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニークな体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみながら環境を学べる修学旅行です。



(3) 環境に配慮した企業の見学

本市には環境に配慮した製品づくりを行う様々な企業があります。工場見学などを通して企業の環境への取組を学ぶことができます。



TOTO



九州製紙



シャボン玉石けん

(4) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市でユニークな環境への取組を行っている企業や大学、研究者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

本市では、平成 20 年から 34 年までの 15 年間で市内に新たに 100 万本の緑を増やそうとする「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の産業廃棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを植樹する緑化活動が行われています。

この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも大変ユニークな取組が行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェクトに参画ができるとともに地球温暖化防止や資源循環の大切さを学ぶことができます。



■生ごみコンポストづくり

本市は、環境国際協力にも力を入れています。その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南アジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコンポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレクチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。



(5) 今後の取組

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうことで、本市の環境への取組が広く情報発信され、次世代を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期待できます。

本市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や受入体制の強化を行っていきたくと考えています。

第 3 節 環境情報の共有と発信

本市には、地域コミュニティ活動や自然環境保全活動などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワークづくりも進められています。環境への取組を更に進めていくためには、あらゆる主体が環境に関する多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくための基盤づくりを進めていく必要があります。

今後、周知方法の更なる工夫を図りながら、様々な媒体・機会を活用した情報発信に取り組むとともに、シンポジウムやイベントで対話するなど、双方向でのコミュニケーションの促進を進めていきます。

1. 北九州エコライフステージ

(1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

(2) 事業内容

平成 14 年度に開始してから、開催 12 年目を迎えた平成 25 年度は、約 166 万 3 千人の市民が参画し、272 行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

ア. シンボル事業「エコライフステージ 2013」

開催日：平成 25 年 10 月 19 日（土）・20 日（日）
会場：勝山公園大芝生広場
テーマ：つなげる・つながる未来へ～わたしたちの消費行動が未来をつくる～

- 内容
- それぞれの出展のテーマに合わせて、11 のテーマゾーンを設置
 - 環境活動に取り組む団体による有機野菜等を使った食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着し、環境に配慮したライフスタイルを提案する出展
 - マスメディアの参画によるステージイベント、番組の制作・放映



シンボル事業「エコライフステージ 2013」

- CO₂ の削減が実感できる、環境に配慮した会場運営の実施（デポジット制によるリターナブル食器の利用、次世代クリーンエネルギー（水素エネルギー）による発電、バイオディーゼル燃料による発電等）
- 小型電子機器等のリサイクル資源の回収
- 北九州市立大学の学生の企画・運営による「エコスタイル café」の実施
- 東日本大震災復興支援企画の実施

イ. 地域・テーマ別事業（通年事業）

会場：市内一円
内容
市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。（271 事業）

(3) 成果

北九州エコライフステージは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環（わ）が広がっています。シンボル事業「エコライフステージ 2013」では、103 団体、15 万 7 千人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。また、平成 25 年度はエコマンスのメインイベントとして、同時期に開催される環境イベントや国際会議と連携し、本市の環境活動を国内外に広く発信しました。平成 21 年度から実施している「エコライフステージ 3 つの約束」では、ごみを出さない工夫、電気の使用を最大限に抑えたイベント運営、フードロスゼロの推進などを行うことで、主催者・出展者・来場者が一丸となって環境に配慮した会場づくりに取り組みました。

(4) 今後の取組

平成 25 年度はエコマンスのメインイベントとしてフードロス削減や 3 切り運動（食べ切り、水切り、使い切り）の啓発など新しい活動に挑戦しました。この取組を今後も継続し、さらなる環境活動の広がりを目指します。